第２講
経済活動に関する論述問題

［２－１］

統計を利用した貿易に関する問題です。内容は決して難しくありませんので，確実な文章作成を心がけましょう。

まず（１）ですが，これはとくに重要な問題でもないので，答えを言ってしまいますね。「国際分業」が正解です。さらに（２）ですが，これも難しくないでしょう。**ア**は金額の大きさが，**イ**は鉄鉱石や石炭，**ウ**はやし油，**エ**は茶が，それぞれポイントになります。こちらも答えを明かしてしまいましょう。**ア**がアメリカ合衆国，**イ**がオーストラリア，**ウ**がフィリピン，**エ**がスリランカです。また**X**と**Y**については，**X**が日本の主要輸出品目（17.7という高率！）であることが重要で，**Y**が多くの国で主要輸入品となっていることがポイントです。**X**が「自動車」，**Y**が「原油」です。**Y**がちょっと難しかったかもしれませんね。

（３）では貿易依存度について問われています。貿易依存度は，貿易額をGDPで割った値です。GDPはGNIと同じようなものと考えて構わない統計指標で，当該国の経済規模を表します。「経済規模」という言葉を用いて説明するとスムーズでしょう。

（４）は垂直貿易の意味について問われています。垂直すなわち縦方向の貿易なのですが，この場合の縦とは「先進国」と「発展途上国」の関係を表します。近年は中国や東南アジアなど発展途上地域であっても工業製品の輸出が増えてきましたし，欧米の先進国のほとんどは農産物を輸出していますが，ここではより古典的な意味での垂直貿易について論じてみましょう。最もシンプルに記述するならば「発展途上国が一次産品を，先進国が工業製品をそれぞれ輸出しあう貿易形態」なのですが，これでは字数が足りませんね。一次産品に具体的な例として「資源や農産物（あるいは商品作物）」，工業製品にそれを形容する言葉として「高付加価値」などのキーワードを付け加えることを検討してください。

さらに(**5**)ではFTAについての説明が求められています。FTAはそのまま「自由貿易協定」であり，それ以上の説明は本来いらないのですが，本問では50字というそれなりの長さの文章で論じなければいけないのがかえって難しいのです。例えば「複数の国・地域の間で締結される貿易協定である」のような書き出しとして，２つめの文以降で具体的な自由貿易の意味に言及してみてはどうでしょうか。「関税や貿易障壁の撤廃」などが例です。あるいは，その目的や結果について触れてみてもいいかもしれません。「経済交流が活発化する」，「巨大な自由貿易経済圏が形成される」などのように。ごく当たり前の内容で特殊な知識を必要としない「無難」な記述も重要ですよ。

最後に(**6**)です。先に**カ**と**キ**から特定してしまいましょうか。**カ**は急激な伸びを示す港湾です。同様の伸びを示している港湾にシェンチェンやコワンチョウがありますから，特定は難しくないでしょう。人口はペキンを上回り，港湾の規模も大きいと予想されるシャンハイが該当します(首都のペキンは内陸の都市で港湾を有さないことに注意してください)。**キ**は逆に地位が低下しています。同様の傾向を示す港湾にロサンゼルスやハンブルクがあります。先進国の港湾と考え，ヨーロッパ最大の貿易額を誇る(しかし世界全体で見れば，上記のアジアの主要港には劣る)ロッテルダムのユーロポートが該当するとみていいでしょう。

では論述に移りましょう。字数制限がありませんが，簡単に述べることが求められているはずです。国を考える場合にとくに重要となる指標は「１人当たりGNI」です。これがおおよそ３万ドルを超えると先進国，数千ドル程度ならば発展途上国となり，その中間がNIEs(新興工業経済地域)です。NIEsは，EUやNAFTA(現USMCA)のような国際的に取り決められたものではなく，あくまで経済レベルに基づいて世界各国を区分した場合の一つのグループと考えてみましょう。いわゆる中進国であり，1980年代以降に急成長を果たした新興工業国の括りです。経済レベル順に並べれば，「先進国＞NIEs＞発展途上国」となります。

とくにアジアNIEsという言い方を聞いたことがあるかもしれません。東アジア・東南アジアにおける新興工業国のグループとして，韓国・台湾・ホンコン・シンガポールの４つの国・地域の総称です。もっとも，ホンコンやシンガポールは先進国並みの１人当たりGNIの高さを誇っていますので，経済レベルだけが基準とはなっていないことは明確なのですが，それでも日本など先進国と中国など発展途上国との間に位置する存在と考えることは妥当です。

本問についても，欧米と日本の「先進国」，韓国など「アジアNIEs」，台湾とホ

ンコンを除く中国が該当する「発展途上国」との違いについて明確に論じれば解答は難しくないでしょう。

なお，順位が下がっているロサンゼルスやハンブルクについても数量自体は増加しているので，「取扱量が減った」という表現は避けるよう慎重になってください。あくまで「順位が下がった」，「地位が低下した」という書き方をしないと不正確となります。

［２－２］

本問は設問Ａは省略してありますので，設問Ｂだけになります。日本の工業に関する問題ですが，とくに1990年代以降が大きなテーマの一つとなっており，生産拠点の海外移転について述べることが求められています。「円高」，「現地生産」，「安価な労働力を求めての工場の移動」，「産業の空洞化」など定番キーワードがとくに多く登場するジャンルですから，書き方をしっかりマスターしましょう。

まず（１）について考えてみましょう。日本の自動車生産に関する問題は頻出です。問われる内容は決まっていますので，この機会に慣れておくことが大切です。以下の３つのフェイズ（時期）を理解してください。

最初のフェイズは，オイルショックから高度経済成長の終焉の時期です。1970年代がこれに該当します。1950年代後半から活性化した日本の経済成長は，オイルショックを引き金として終わりを迎えます。これにより，鉄鋼業や石油化学工業などの重厚長大産業は停滞期に入り，また安価な原油による発電に依存していたアルミニウム工業は途端に国際競争力を失い衰退します。その一方で，自動車工業においては全く別の局面を迎えます。ガソリンの価格が高騰したせいで（おかげで？），燃費の良い日本車に注目が集まり，本来の性能の良さもあいまって，世界中で日本車人気が高まります。オイルショックという逆境があったからこそ，この時期の生産台数は拡大の一途をたどり，いよいよ1980年代にはアメリカ合衆国をしのぎ，世界最大の自動車生産国へと躍り出るのです。問題文における「1985年まで伸びていた」ことについては，以上の内容をまとめたらいいでしょう。字数制限があるので，簡単な記述に限定されますが，少なくとも「オイルショック」という用語は重要です。

さらに２つ目のフェイズは1980年代です。日本車ブームによって，とくにア

メリカ合衆国向けの自動車輸出が加速し，大幅な日本の輸出超過（つまり貿易黒字），アメリカ合衆国の輸入超過（貿易赤字）となります。この貿易不均衡を「貿易摩擦」と言いますが，アメリカ合衆国がこのような状態を看過するわけもなく，日本の自動車メーカーに対して輸出台数の制限など圧力をかけて来ます。日本企業全体に対する攻撃的な世論が高まったのもこの時期です（ジャパン・バッシング）。輸出の増加について，「アメリカ合衆国」との間に「貿易摩擦」が生じたことを述べましょう。

そして３つ目のフェイズが1980年代後半から1990年代にかけての時期です。当時「円高」により日本製品の国際競争力が低下した（＊）こともあり，海外に工場がさかんに進出するようになりました。自動車工業も例外ではないのですが，自動車については他の工業種（衣類や電化製品）とはややベクトルが違い，欧米の先進国に日系工場が設けられるパターンが多かったのです。もちろん理由は「貿易摩擦の解消」です。日本の自動車メーカーの多くが，アメリカ国内に生産の拠点を移動し，「現地生産」を始めました。これにより，日本からの輸出は減少し（グラフにそのことははっきりと表されていますね），貿易不均衡は緩和されたのです。もちろんこれにより日本の自動車生産は停滞することになるのですが，そのことは本問では話題にする必要はなさそうです。あくまで，貿易に特化した内容を説明しましょう。

現地生産とは，工場が進出した先の国で販売することを目的として生産活動を行うことです。安価な労働力を利用するために発展途上国へと工場が進出するパターンとは異なることを理解してください。アメリカ国内のマーケットでの販売なのですから，「市場」という言葉は使えるかもしれません。また少し欲張れば，同じような現地生産はヨーロッパでも見られたので，「EU」も候補にはなります。ただ，EUがECから改組されたのは1990年代半ばなので，この語を使用するならば時期との整合性には注意してください。個人的には無理に使うキーワードでもないかな，とは思っています。

（＊）円高については，受験地理のレベルでは詳しい説明は不要です。単に「円高により産業の空洞化が生じた」のように大雑把な表現で構いません。具体的には円高については「１人当たりGNIの上昇」と考えてください。賃金水準が上がり，国内での製造コストが上がるため，工場が海外に展開するようになります。また所得水準が上がったことで，海外旅行も増えるわけですが，要するに海外でお金を使うわけで，これって「輸入」みたいなものでしょ？円高によって「輸入がしやすくなる」と覚えておけば，輸出については困難になることも連想しやすいでしょ

う。「円の価値が上がる」ということは，円によっていろいろな外国のものが買いやすくなる反面，外国からみると日本のものは「高嶺の花」となるわけです。前述のように，受験地理では円高についての説明はあまり求められませんが，簡単に以上のようなことを知っておくと便利だと思います。

（２）についても考えてみましょう。内容的には（１）とかなり重なると思います。ただ，（１）の方が制限字数を埋めるのには苦労しないのに対し（３つのフェイズについて順に説明すればいい），こちらはちょっと頭を使わないといけないかも知れません。

まず，基本となるのは，日本の工場が外国へと進出した経緯から。（１）では「先進国での現地生産」がポイントになりましたが，こちらは「発展途上国への工場進出」がカギとなっているのです。自動車に比べて，テレビなど電化製品は価格が安いので，とくに安価な労働力が得られやすい地域へと生産の拠点が展開する傾向が強くなるのです。（１）と同様に「円高」はおいしいキーワードなので使うとして，それから「労働力」という言葉を用いて，外国に工場が移転した理由を説明してください。

また1990年代のこの時期に工場が盛んに進出した国としてマレーシアやタイがあるので，ここで「ASEAN」は使えるはずです。あるいは字数を稼ぎたいのならば，「輸出指向型工業」という言葉を登場させてもいいですし，「輸出加工区」や「経済特区」（こちらは中国限定ですが）などという言葉も使ってしまっていいでしょう。

ちなみに，語群に「海外生産」という言葉があり，これがちょっと厄介だなと思っているのです。海外生産は文字通り，海外で生産活動を行うことなのですが，先進国における現地生産も，発展途上国における輸出を前提とした生産も，同様に「海外生産」となるのです。もちろん与えられた語句はできるだけたくさん使った方がいいのですが，もし私が受験生としてこの問題を解くならば，（１）の内容についてはあえて海外生産という言葉は使わないと思います（模範解答もそうなっています）。語群にはありませんが「現地生産」という言葉を優先して用いたいのです。その分，（２）の解答は必ず「海外生産」という言葉は入れることになります。この辺りの判断はみなさん個人個人にお任せしますが，語句の定義だけは間違えないようにしてください。とくに発展途上国における生産活動について「現地生産」という言葉はご法度ですよ。デリケートな部分です。

［２－３］

食料に関する問題ですが，農業や貿易も含めた総合的な問題となっています。

設問Ａからみていきましょう。

（１）の判定は容易でしょう。フランスについては西ヨーロッパ最大の農業国であることが分かれば判定できます。イギリスとスペインは気候環境がポイントになります。

そのイギリスとスペインの判定についての理由が（２）で問われています。字数制限は90字とやや長くなっていますが，一つの国について40字程度と考えるとむしろ短いぐらいです。要点を絞って書かないといけません。

まずイギリスについて。イギリスといえば農業就業人口割合が低い国（１％台）として知られていますが，これは大規模経営によって農業が営まれ，省力化が進んでいるということでもあります。経営規模が大きく，小麦栽培が盛んであることがイギリスの一つの特徴です。西ヨーロッパにおける小麦輸出国を確認しておいてください。フランスを除くと，イギリス，ドイツ，デンマークなど北部に位置する国での輸出が多いことに気づくはずです（＊）。また冷涼な国であるので，それに即した作物の栽培がみられます。とくにイギリスは大陸氷河の影響で，南部のロンドン周辺を除くと肥沃な土壌に恵まれません。そうした厳しい自然環境下で栽培される作物であるジャガイモに注目してみましょう。

一方，スペインについては温暖で比較的乾燥した国です。冷涼な気候環境を好む小麦については栽培に適しているとはいえません。逆に温暖な気候環境の下，野菜栽培は盛んに行われています。字数に余裕があれば，スペインを代表する畜産物であるイベリコ豚を例示して，肉類の値の大きさに触れてみてもいいかもしれません。

（＊）現在（2018年），イギリスの小麦輸出量は減少し，輸入量の方が多くなっています。穀物自給率も80％台に低下しました。

続く（３）は非常に重要な問題です。みなさん，ホイットルセー農牧業区分はきちんと理解していますか。それぞれの農牧業区分について教科書などを用いて，整理しておいてください。数十字でまとめて，丸覚えしてしまうことをお勧めします。

オランダはホイットルセー農牧業区分においては，園芸農業の代表的な国ですので，これについて記述するのが基本です。園芸農業においては穀物栽培は重視されず(オランダは先進国としては例外的に穀物自給率が極端に低い国です)，野菜や果実，肉類や乳製品など収益性の高い農畜産物が生産される，極めて集約的かつ商業的な農業形態です。とくに沿岸の砂丘部で野菜が盛んに栽培されることは知られています。

ただし，本問については「高度」との関係を述べることが求められています。オランダは言わずと知れたポルダー(干拓地)の国です。浅海に堤防を建設し内側を排水し，干拓地を造成してきました。低湿な土地は穀物栽培には適さず，主に牧草地として利用され，酪農が行われています。

園芸農業を基本としつつも，低地において酪農が行われている様子を説明すれば完璧でしょう(とくに園芸農業は沿岸の砂丘部で盛んです)。ホイットルセー農牧業区分は使い勝手がいいので，「覚え得」ですよ！

(４)については，(Ｂ)／(Ａ)の値の低い都道府県に，東北地方や日本海側の県が並んでいることがポイントになります。これらの地域で盛んに栽培されているものは何でしょう？もちろん「米」ですね。本問は米の特性について説明することが肝要となります。

米はカロリー(熱量)が高い作物です。栄養価も高く，この作物の栽培に適していることが東アジアから東南アジア，南アジアに至る湿潤アジア(モンスーンアジア)における人口密度の高さにつながっています。栽培のためには夏の高温と十分な降水量(あるいは灌漑用水)が必要であるという限定された条件はあるものの，これを満たす地域ならば米の栽培により多くの人口を養うことができます。人口支持力が高い作物なのです。

一方，価格の点においては米は単位面積当たりの収入は小さくなります。果物や畜産物，野菜と比べてこれは明確でしょう。田植え機や稲刈り機など農業機械が導入され，省力化が進むことも米の特徴です。多くの手間を必要とする野菜などとは大きく異なっています。このことを意識して文章を作成してみましょう。ただし，おそらくみなさんが感じる困難は字数だと思います。「米はカロリーが高く，価格が安いから」だけで解答は終わってしまうのです。ここは問題文の要求に応え「これらの道県に共通する」要素についてしっかり論述してください。

(５)は(４)とは対照的な設問となっています。(Ｂ)／(Ａ)の値が高いというこ

とは，これらの都府県における主な生産物は，「カロリーが低いこと」と「価格が高いこと」が特徴となるわけです。米と対照的な農作物ということでピンと来るのではないでしょうか。もちろん「野菜」ですね。なるほど，野菜は近郊農業で主に生産されるものですから，（**ア**）大都市圏での生産が盛んなことはわかります。さらに（**イ**）それ以外の県の顔ぶれを見ても，さらに納得させられるのではないでしょうか。ビニルハウスを用いた促成栽培，そしてトラックによる大都市圏への輸送がポイントとなります。こうした農業に関する知識は，高校というより小中学校レベルのものでしょう。決して難しい内容ではありませんので，自分なりに工夫して書き上げてみましょう。

設問**Ｃ**はグラフの読解を組み合わせた問題になります。大豆の生産が増加し，輸入量も急増しているのですから，中国の国内における供給量（消費量と同義です）はさらに激しい増加をしているわけです。大豆の主な用途を考えれば，論述は難しくないでしょう。

とくに本問の場合は使用すべき語が決められています。なかなかおもしろいと思うのですが，こうした語句（以下，キーワードとする）が設定されている問題には２つのパターンがあり，一つはキーワードの使用が足かせになる場合です。もっとスムーズに文章を書きたいのに，キーワードを強制されることで，いちいちそれに触れないといけなくなり，本来の主張が説明しにくくなってしまうのです。こういった経験はみなさんにもあるでしょう。

もう一つのパターンはそれとは反対に，キーワードが道標になる場合です。一体何を書いたらいいか迷うような問題の場合，とりあえずキーワードに素直に従ってみて，文章をつなげていけば，意外ときちんとした解答になったりするものです。作問者によって正解を誘導されているとも言えるのですが，相手の要求する解答に自分の主張を寄せていくというアプローチは入試問題においては悪いことではありません。

そして，本問については後者の典型的な例だと思うのです。キーワードがなければ，「飼料としての供給が拡大した」でおしまいなわけですが，ここに「所得水準」と「肉類」を関連させて文章を作るのです。「所得水準」の向上によって食生活は変化し，日常的に肉類を多く食べるようになります。牛や豚などの家畜の飼料として大豆は重要な作物です。キーワードに沿って素直に文章を組み立ててみましょう。おそらくそれこそが，問題を作った側が求める正解なのです。

第２講　練習問題

［２－１］ 京大　2015年度・第２問

貿易に関する下の文章を読み，以下の問（１）～（６）に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。字数制限のある問については，句読点も字数に含めよ。

現代世界は，ヒト，モノ，カネ，情報の流れによって緊密に結びついている。このうち，モノの流れである貿易をみると，（ａ）自国で多く生産される品目が輸出され，代わりに生産が難しい品目が輸入されることによって，諸国間で相互補完する体制が成立している。そのため，（ｂ）各国の貿易は多様であるが，（ｃ）輸出と輸入の主要品目からみると，一定の傾向がある。なお，近年では，世界貿易機関（WTO）による多国間交渉が停滞する傾向にある中，（ｄ）これを補完する国際ルールが注目されている。（ｅ）貿易を担う物流は，トラック，鉄道，船舶，航空機などの輸送機関を利用して行われる。

問

（１）下線部ａのような体制を何と呼ぶか。

（２）下線部ｂに関連し，次の**表１**は，アメリカ合衆国，オーストラリア，スリランカ，日本，フィリピンの５か国の輸出入額，貿易依存度，主な品目を示したものである。表中の**ア**，**イ**，**ウ**，**エ**に該当する国名を答えよ。また，**Ｘ**，**Ｙ**に該当する品目を，以下の品目群①～⑥の中から選び，番号を答えよ。

品目群

①　紙類　　②　原油　　③　小麦　　④　米　　⑤　自動車　　⑥　船舶

（３）次の**表１**に示された輸出と輸入の貿易依存度は，それぞれ，輸出額と輸入額の国内総生産（GDP）に対する比率である。国の経済規模と貿易の比重との間には，一般的にどのような対応関係があるか，答えよ。

表１

国		額（10億ドル）	貿易依存度（%）	主な輸出入品の輸出入総額に占める割合（%）							
ア	輸出	1,480	9.9	機械類	25.2	X	7.8	石油製品	6.8	精密機械	4.2
	輸入	2,263	15.1	機械類	25.8	Y	15.2	X	8.9	石油製品	4.3
日本	輸出	823	14.0	機械類	36.9	X	17.7	鉄　鋼	5.7	精密機械	5.2
	輸入	855	14.5	機械類	18.3	Y	16.6	液化天然ガス	7.0	衣　類	3.9
イ	輸出	246	17.9	鉄鉱石	24.9	石 炭	17.9	金（非貨幣用）	5.6	Y	4.4
	輸入	234	16.1	機械類	24.8	X	10.9	Y	9.2	石油製品	6.6
ウ	輸出	48	21.5	機械類	35.4	X	4.6	建築用木工品	3.5	やし油	3.0
	輸入	64	28.5	機械類	22.8	Y	12.4	石油製品	5.8	X	4.5
エ	輸出	10	17.3	衣　類	42.1	茶	14.7	ゴム製品	7.0	ダイヤモンド	3.8
	輸入	20	33.7	機械類	12.8	石油製品	11.9	繊維品	11.3	X	9.6

データは2011年。
資料：『世界国勢図会2013/14年版』

（**4**）下線部**c**に関連し，一定の傾向の１つに，垂直貿易がある。**表１**を参照しつつ，垂直貿易について，50字以内で説明せよ。

（**5**）下線部**d**に関連し，自由貿易協定（FTA）とはいかなるものか，50字以内で説明せよ。

（**6**）下線部**e**に関連し，下の**表２**は，コンテナ取扱量の上位10港を示している。1990年から2010年にかけて，どのような地域的変化があったかを述べよ（解答欄①)。また，**カ**と**キ**に該当する港名を答えよ。

表２

順位	1990年		2000年		2010年	
1	シンガポール	5,224	ホンコン（香港）	18,100	**カ**	29,069
2	ホンコン（香港）	5,101	シンガポール	17,040	シンガポール	28,431
3	**キ**	3,667	プサン（釜山）	7,540	ホンコン（香港）	23,532
4	カオシュン（高雄）	3,495	カオシュン（高雄）	7,426	シェンチェン（深圳）	22,510
5	神　戸	2,596	**キ**	6,280	プサン（釜山）	14,157
6	ロサンゼルス	2,587	**カ**	5,613	ニンポー（寧波）／チョウシャン（舟山）	13,144
7	プサン（釜山）	2,348	ロサンゼルス	4,879	コワンチョウ（広州）	12,550
8	ハンブルク	1,969	ロングビーチ	4,601	チンタオ（青島）	12,012
9	ニューヨーク／ニュージャージー	1,872	ハンブルク	4,248	ドバイ	11,600
10	キールン（基隆）	1,828	アントワープ	4,082	**キ**	11,146

単位は千TEU。TEUは，20フィートコンテナに換算した量。
資料：『世界国勢図会2013/14年版』ほか。

［２－２］　東大　2003年度・第３問

日本の工業に関する以下の設問Ａ～Ｂに答えよ。解答は，解答用紙の（ハ）欄を用い，設問・小問ごとに改行し，設問記号・小問記号をつけて記入せよ。

設問Ａ（省略）

設問Ｂ

図１～２は，自動車とカラーテレビの国内生産と輸出入の推移を示したものである。

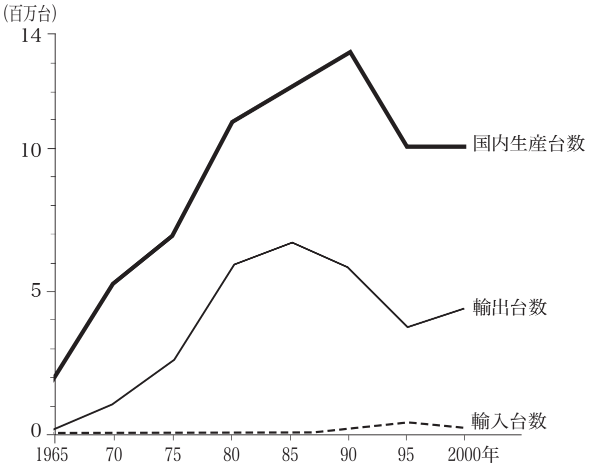

図１　日本自動車工業会資料による。

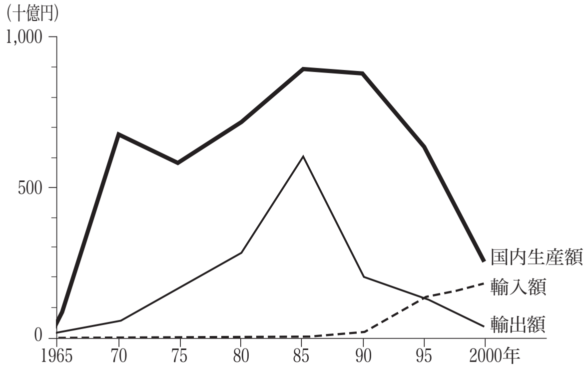

図２　日本電子機械工業会資料による。

（**１**）**図１**は，自動車の国内生産台数と輸出入台数の推移をみたものである。このうち輸出台数は，1985年まで伸びていたが，それ以降は減少もしくは微増に留まっている。その理由を，下の語群より適当な語句を選択して，90字以内で述べよ。語句はいくつ選択してもよいが，使用した箇所には下線を引くこと。

（**２**）**図２**は，カラーテレビの国内生産額，輸出入額の推移をみたものである。1990年以降，国内生産額が大幅に減少し，輸入額が増大している。その理由を，下の語群より適当な語句を選択して，90字以内で述べよ。語句はいくつ選択してもよいが，使用した箇所には下線を引くこと。

語群

円高　　オイルショック　　貿易摩擦　　海外生産　　市場　　労働力

アメリカ合衆国　　EU　　ASEAN　　OPEC

［２－３］ 東大　2009年度・第２問(改変)

世界と日本の食料に関する以下の設問Ａ～Ｃに答えなさい。解答は，解答用紙の(ロ)欄を用い，設問・小問ごとに改行し，設問記号・小問番号をつけて記入しなさい。

設問Ａ

次の**表１～３**は，ヨーロッパ各国と日本の食料自給率に関するものである。食料自給率には，①品目別の消費量(重量)に対する生産量(重量)の割合を示す品目別自給率，②品目別の消費量と生産量を熱量(カロリー)換算して全品目を合算する熱量ベース自給率，③金額換算して全品目を合算する生産額ベース自給率とがある。

表１

国	熱量ベース自給率(%)	品目別自給率(%)			
		穀　類	いも類	野菜類	肉　類
(ア)	122	173	104	87	106
(イ)	70	99	71	42	66
オランダ	58	24	120	282	210
(ウ)	89	68	44	159	111
日本	40	27	83	82	54

『食糧需給表』による。

表２

順位	都道府県	熱量ベース自給率(Ａ)(%)	生産額ベース自給率(Ｂ)(%)	(Ｂ)/(Ａ)
38	福　島	82	113	1.4
39	宮　城	79	100	1.3
39	石　川	47	61	1.3
41	山　形	128	150	1.2
41	新　潟	94	117	1.2
43	富　山	72	71	1.0
43	福　井	63	61	1.0
45	北海道	201	188	0.9
45	秋　田	164	140	0.9
47	滋　賀	52	42	0.8

農林水産省試算による。

表３

順位	都道府県	熱量ベース 自給率（A）（%）	生産額ベース 自給率（B）（%）	（B）/（A）
1	東　京	1	5	5.0
2	神奈川	3	14	4.7
3	山　梨	20	92	4.6
4	宮　崎	62	256	4.1
5	和歌山	30	109	3.6
6	長　崎	42	137	3.3
7	静　岡	18	55	3.1
7	愛　媛	40	123	3.1
7	高　知	47	144	3.1
10	大　阪	2	6	3.0

農林水産省試算による。

（**1**）**表１**は，2003年における各国の熱量ベース自給率，および，主要品目の品目別自給率を示している。表中の(**ア**)～(**ウ**)は，イギリス，スペイン，フランスのいずれかである。(**ア**)～(**ウ**)の国名を，それぞれ**ア**－◯のように答えなさい。

（**2**）(**イ**)と(**ウ**)の国名について，そのように判断した理由を，農業生産の面から，あわせて90字以内で述べなさい。

（**3**）**表１**に表れているようなオランダ農業の特徴を，オランダの高度の特性と関連させて60字以内で述べなさい。

（**4**）食料自給率は，国別だけでなく国内地域別にも計算することができる。**表２**と**表３**は，2005年の都道府県別の（**A**）熱量ベース自給率と（**B**）生産額ベース自給率を示している。**表２**には，（**B**）を（**A**）で割った比率の下位10道県が並べられている。これらの道県でこの比率が下位にある理由を，これらの道県に共通する農業の特徴から60字以内で述べなさい。

（**5**）**表３**には同じ比率の上位10都府県が並べられている。これらの中には，(**ア**)大都市圏およびその近郊に含まれる都府県と（**イ**）それ以外の県がある。（**イ**）で，この比率が上位にある理由を，これらの県に共通する農業の特徴から60字以内で述べなさい。

設問Ｂ（省略）

設問Ｃ

下の**図２**は，1961年から2005年までの，中国における大豆の生産量および輸入量の推移を示したものである。1990年代半ば以降，大豆の生産量は徐々に増加しているのに対し，大豆の輸入量は急激に増加している。その理由を，下記の語句を全て用い，60字以内で述べなさい。語句は繰り返し用いてもよいが，使用した箇所には下線を引くこと。

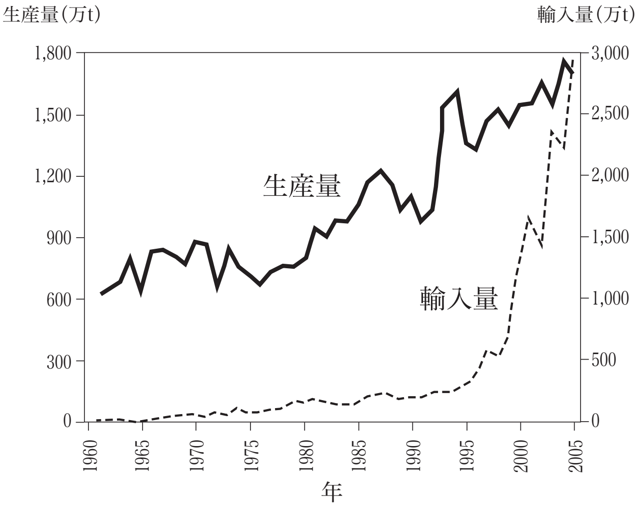

図2

FAO資料による。

所得水準　　肉類

〈 ***Note*** 〉

第2講　確認テスト

［1］　東大　2015年度・第2問

世界の貿易に関する以下の設問A～Bに答えなさい。解答は，解答用紙の(ロ)欄を用い，設問・小問ごとに改行し，設問記号・小問番号をつけて記入しなさい。

設問A

表2－1は，アフリカの3つの国を取り上げ，主要貿易相手国(輸出額・輸入額の上位5カ国)を示したものである。

A国

相手国	輸出額	割合(％)
全　体	21,417	100.0
フランス	4,619	21.6
スペイン	3,541	16.5
ブラジル	1,266	5.9
インド	1,161	5.4
アメリカ合衆国	930	4.3

相手国	輸入額	割合(％)
全　体	44,790	100.0
スペイン	5,901	13.2
フランス	5,548	12.4
中　国	2,968	6.6
アメリカ合衆国	2,859	6.4
サウジアラビア	2,832	6.3

B国

相手国	輸出額	割合(％)
全　体	86,712	100.0
中　国	10,139	11.7
アメリカ合衆国	7,586	8.7
日本	5,414	6.2
ドイツ	4,175	4.8
インド	3,675	4.2

相手国	輸入額	割合(％)
全　体	101,611	100.0
中　国	14,638	14.4
ドイツ	10,237	10.1
サウジアラビア	7,877	7.8
アメリカ合衆国	7,497	7.4
日　本	4,623	4.5

C国

相手国	輸出額	割合(％)
全　体	143,151	100.0
アメリカ合衆国	24,139	16.9
インド	15,895	11.1
ブラジル	10,791	7.5
オランダ	9,958	7.0
イギリス	9,042	6.3

相手国	輸入額	割合(％)
全　体	35,873	100.0
中　国	7,715	21.5
アメリカ合衆国	4,887	13.6
インド	2,888	8.1
ブラジル	2,868	8.0
イギリス	2,361	6.6

2012年。輸出額・輸入額の単位は100万米ドル。
フランスには，モナコ・海外県を含む。
アメリカ合衆国には，プエルトリコ，米領バージン諸島を含む。
国際連合Comtrade Databaseによる。

表2-1

（１）Ａ～Ｃの各国は，南アフリカ，ナイジェリア，モロッコのいずれかである。Ａ～Ｃの国名を，Ａ－○のように答えなさい。

（２）Ａ国とＢ国の主要輸出相手国の構成を比較し，その特徴とそうした特徴がみられる背景を，あわせて60字以内で述べなさい。

（３）Ｃ国では，全体の輸出額が輸入額を大きく上回っている。こうした貿易構造に反映されている，この国の経済・社会発展上の課題を60字以内で述べなさい。

（４）Ａ～Ｃの各国とも，輸入相手国の上位に中国が位置している。2000年代に入って，とくにアフリカ諸国では，中国からの輸入が急増している。こうした事態が生じている背景を60字以内で述べなさい。

設問Ｂ（省略）

第２講
練習問題・解答

［２－１］

（１）国際分業（体制）

（２）**ア**－アメリカ合衆国　**イ**－オーストラリア　**ウ**－フィリピン
エ－スリランカ　**X**－⑤　**Y**－②

（３）国内総生産すなわち経済規模が大きくなるほど貿易の比重は小さくなる。

（４）発展途上国が鉱産資源や商品作物など一次産品を輸出し，先進国が高付加価値の工業製品を輸出する貿易の形。(50字)

（５）複数の国や地域により締結される貿易協定。関税や貿易障壁の撤廃で貿易を拡大し，経済関係を緊密化する。(49字)

（６）①　欧米の先進国の地位が低下し，2000年にはアジアNIEsが台頭，そして近年は中国の地位が上昇している。
カ－シャンハイ　**キ**－ユーロポート（ロッテルダム）

［２－２］

設問B
（１）オイルショックにより低燃費の日本車需要が欧米市場で高まり，1980年代前半まで輸出が拡大。だが円高や貿易摩擦を契機とし，アメリカ合衆国での現地生産を拡大したため，以降は輸出が減少。(90字)

（２）円高や賃金の上昇で国内での生産はコスト高となったため，安価で豊富な労働力を求めASEANでの海外生産を拡大した。国内での生産と輸出は急減したが，

ASEAN諸国からの輸入は増加した。(90字)

［２－３］

設問Ａ

（１）(ア)－フランス　(イ)－イギリス　(ウ)－スペイン

（２）イギリスでは大規模な小麦栽培により穀類自給率が高い。冷涼でジャガイモなどいも類の生産も多い。スペインは温暖で野菜の生産が多く，またイベリコ豚など家畜飼育も盛ん。以上の理由による。(89字)

（３）野菜栽培など集約的な園芸農業が営まれているが，低湿な干拓地は作物栽培に適さず牧草地として利用され，酪農が行われている。(59字)

（４）これらの道県は積雪の多い地域に位置し，広く水田単作地帯となっている。価格は安いが熱量の高い米が栽培の中心であるため。(58字)

（５）これらの都府県では高品質の果実や温室を利用した野菜の栽培が盛んである。そうした作物は熱量に比して価格が高くなるから。(58字)

設問Ｃ

所得水準の向上で食生活が多様化し，肉類の供給も増加した。家畜の飼料用の大豆の需要も高まり，不足分を輸入に依存したから。(59字)

第２講
確認テスト・解答と解説

［１］

（１）A－モロッコ　B－南アフリカ　C－ナイジェリア

（２）A国は旧宗主国や近隣のヨーロッパ諸国との関係が深い。B国はレアメタルの産出も多く，その需要が大きい経済大国との貿易が主。(60字)

（３）原油の産出と輸出に国内経済が大きく依存するモノカルチャー経済となっている。原油価格の暴落により経済は大きく混乱する。(58字)

（４）中国は資源の供給先としてアフリカを重要視し，盛んに投資を行うなど経済交流が活発化した結果，貿易も拡大した。(53字)

＜解説＞

（１）Aはモロッコ。旧宗主国であるフランスや近隣のヨーロッパ諸国との貿易が多くなっています。BとCについては，ナイジェリアが産油国であることに注目しましょう。同じく産油国のサウジアラビアが主な輸入先の一つとなっているBが南アフリカとなり，一方のCがナイジェリア。ナイジェリアは原油を輸入する必要はないでしょう。

（２）モロッコについては（１）で説明した通りです。南アフリカは白金などレアメタルの産出が多く，輸出先は世界中に広がります。「先進国」としてしまうと中国が該当しないので，ここは「経済大国」としてみました。経済規模を表す指標であるGNI（GDPと同じようなものと思ってください）は世界１位から４位までがアメリカ合衆国，中国，日本，ドイツです。

（３）大きく貿易黒字となっているのは，原油の輸出が極めて多いからです。モノカルチャー経済の問題点を説明しましょう。

(４)例えば，アフリカ南部のアンゴラは原油産出国ですが，最大の輸出相手国は中国です。資源開発を中心として中国からの投資がアフリカ諸国においては増大し，その影響力や経済関係が強化された様子を想像してみましょう。常識的な内容を書けば十分です。